



「COBIT5ガバナンス応用」コース

「テキスト」



コースの目標

『COBIT5による最新のグローバルスタンダードのITガバナンスの考え方と導入ライフサイクルの活用知識を修得する。』

- ◆COBIT5の基本原則とITガバナンスの基本要素を理解する。
- ◆GEIT(governance of enterprise IT)の構築手法を習得する。
- ◆国際標準にもとづくITガバナンスのプロセス成熟度管理を理解する。
- ◆GEITによる投資対効果のフレームを理解する。

カリキュラム構成と単元テーマ

章と目的	単元	研修項目
第1章 ITガバナンスに向けたCOBIT5構成要件		
<p>目的:</p> <p>COBIT5の原則を もとにITガバナンスの 考え方と構成要件を 理解する</p>	<p>1. COBIT5の鳥瞰 目的:COBIT5の全体像を把握する。</p>	<p>(1)ITガバナンスの概念</p> <p>(2)COBIT5の原則と全体構造</p>
	<p>2. 事業体全体の包含 目的:COBIT5の原則2の意味を理解する</p>	<p>(1)事業体のガバナンス統合とは</p> <p>(2)事業体のガバナンスの定義要素</p>
	<p>3. 一つに統合されたフレームワークの適用 目的:COBIT5の原則3の意味を理解する</p>	<p>(1)一つに統合されたフレームワークの適用とは</p> <p>(2)統合された各標準の概要</p>
	<p>4. ステークホルダーのニーズを充足 目的:COBIT5の原則1の意味を理解する</p>	<p>(1)COBIT5達成目標のカスケードとは</p> <p>(2)達成目標カスケードの参照資料</p>
	<p>5. 包括的アプローチの実現 目的:COBIT5の原則4の意味を理解する</p>	<p>(1)包括的アプローチの実現とは</p> <p>(2)イネーブラーの定義要素</p>
	<p>6. ガバナンスとマネジメントの分離 目的:COBIT5の原則5の意味を理解する</p>	<p>(1)ガバナンスとマネジメントの分離とは</p> <p>(2)プロセス参照モデル</p> <p>(3)プロセス参照モデルの定義構造</p> <p>(4)プロセス参照モデルの記述要領</p> <p>(5)プロセス参照モデルの記述例</p>

カリキュラム構成と単元テーマ

章と目的	単元	研修項目	
第2章 事業体のITガバナンス導入			
<p>目的: COBIT5の導入ライフサイクルに従って事業体のITガバナンス導入ステップを理解する</p>	<p>1. 事業体のITガバナンス導入のしくみ 目的: COBIT5を用いたGEIT導入の概念を理解する</p>	<p>(1) 事業体のITガバナンス導入手法 (2) COBIT5 Implementationの位置づけ</p>	
	<p>2. GEIT導入ライフサイクル 目的: GEIT導入手順と作業内容を理解する</p>	<p>(1) 導入ライフサイクル構造 (2) 導入ライフサイクルの導入手順 (3) 3つのコンポーネントのタスク定義 (4) 導入ライフサイクル定義の記述事項</p>	
	<p>3. GEIT導入ライフサイクルの定義事例(2例) 目的: GEIT導入事例をCOBIT5から引用し、重要2フェーズでイメージを具体化する</p>	<p>CASE1 フェーズ-1</p>	<p>(1) 「フェーズ1の役割と責任」の例 (2) 「フェーズ1の目標、内容、タスク」の例 (3) 「フェーズ1のRACIチャート」の例</p>
		<p>CASE2 フェーズ-4</p>	<p>(1) 「フェーズ4の役割と責任」の例 (2) 「フェーズ4の目標、内容、タスク」の例 (3) 「フェーズ4のRACIチャート」の例</p>

カリキュラム構成と単元テーマ

章と目的	単元	研修項目
第3章 ITガバナンス活動の成熟度管理		
目的: COBIT5採用のISO/IEC 15504に基づいた ITガバナンス活動の 成熟度を理解する	1. 成熟度アセスメントモデル 目的:ITガバナンス活動の分野と ITガバナンスのプロセス成熟度 の考え方を理解する	(1)ITガバナンスの領域 (2)SPAアセスメント
	2. COBIT5プロセス能力アセスメント モデル 目的:COBIT5のプロセス能力アセ スメントモデルの定義を理解する	(1)プロセス能力アセスメントモデル (2)演習:能力アセスメント演習
第4章 ITガバナンスの投資対効果分析		
目的: 事業戦略にもとづいた ITガバナンスの目標展開 と投資対効果基準作りを 理解する	1. IT戦略の目標設定 目的:IT戦略目標への絞り込みと ITガバナンス分野と目標定義	(1) IT戦略目標への絞り込みと定義 (2)IT戦略目標のKPI化
	2. 投資対効果の定量的把握 目的:事業戦略目標に対する財務的 な投資対効果の算定基準を 理解する	(1)投資対効果の基準 (2)投資量と効果の把握 (3)演習:投資対効果算定
理解度テスト		



第1章 ITガバナンスに向けたCOBIT5構成要件

章の概要

1. COBIT5の鳥瞰
2. 事業体全体の包含(原則2)
3. 一つに統合されたフレームワークの適用(原則3)
4. ステークホルダーのニーズを充足(原則1)
5. 包括的アプローチの実現(原則4)
6. ガバナンスとマネジメントの分離(原則5)



1.1 COBIT5の鳥瞰

1.1.1 ITガバナンスの概念

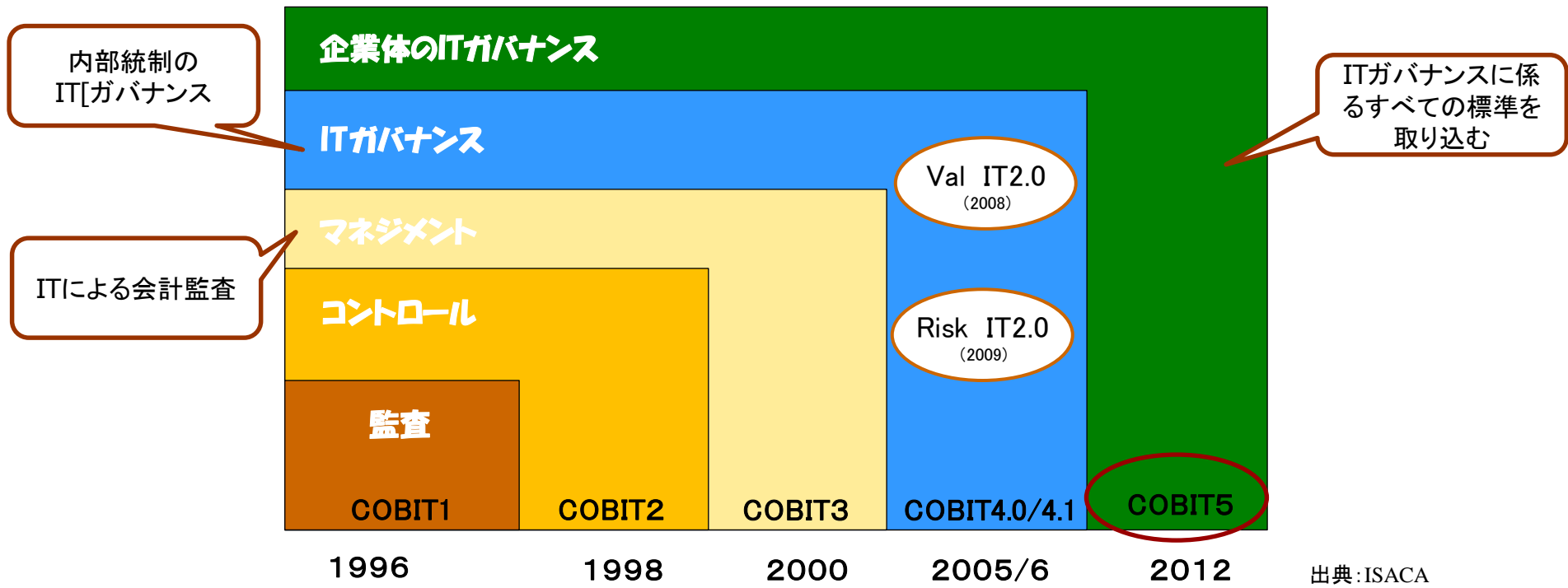
1.1.2 COBIT5の原則と全体構造

出典: A Business Framework for the Governance
and Management of Enterprise IT

発表: 2012年4月 in ISACA (2013年2月から翻訳版
(以降、「出典: COBIT5 Framework」と表示する))

1.1.1 ITガバナンスの概念

◆COBITによるITガバナンスの進化



ポイント: COBIT5はITガバナンスを企業体(事業体)のIT ガバナンスに統合し拡張した。

1.1.1 ITガバナンスの概念

◆COBITによるITガバナンスの定義

COBIT5のITガバナンス定義

事業体のITガバナンスとは、

「効果の実現と、リスクレベルやリソース活用の最適化とのバランスを保つことによって、
事業体がITから最適な価値を生み出すこと。」



COBIT5フレームワーク特性

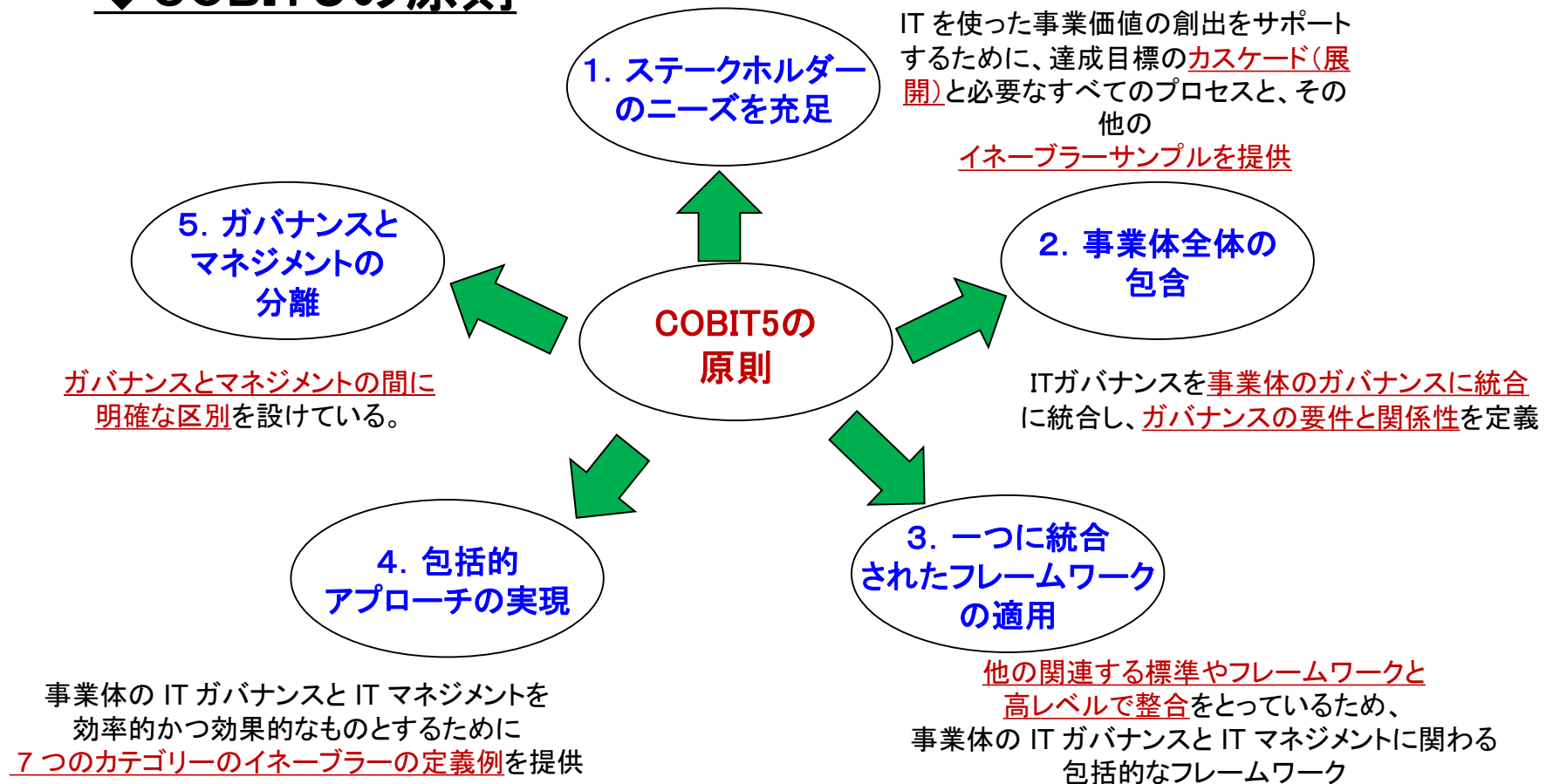
- ◆ COBIT 5 は、IT ガバナンスと IT マネジメントに関わる目標を事業体が達成できるよう支援する包括的なフレームワークを提供する。
- ◆ COBIT 5のフレームワークは、5つの原則にもとづいて要件を整理する。

出典: COBIT5 Framework

ポイント: COBIT5は事業体の目標が達成できることを目的としたITガバナンスのフレームワークとして設計された。

1.1.2 COBIT5の原則と全体構造

◆COBIT5の原則

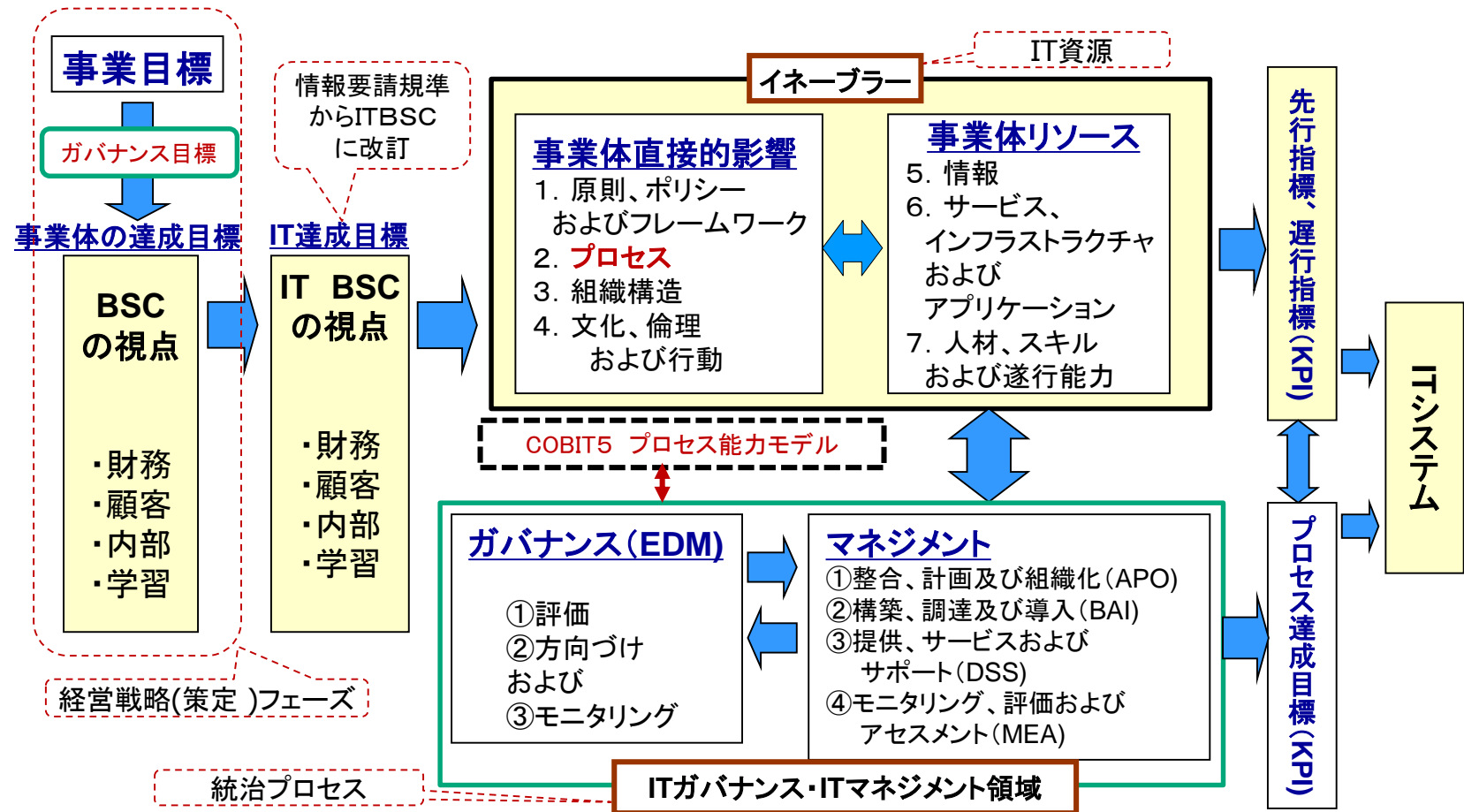


出典:COBIT5 Framework

ポイント:事業のITガバナンスに向けて、5つの原則によって体系化した。

1.1.2 COBIT5の原則と全体構造

◆COBIT5のITガバナンスの構造



ポイント: COBIT5は事業体目標へのITガバナンスを体系的に整理した。



1.1 COBIT5の鳥瞰のまとめ

1. COBIT5のITガバナンスは、「効果の実現と、リスクレベルやリソース活用の最適化とのバランスを保つことによって、事業体が IT から 最適な価値を生み出すことを支援するものである。」と定義した。
2. COBIT5は事業体の目標が達成できることを目的としたITガバナンスのフレームワークとして設計された。
3. 事業のITガバナンスに向けて、5つの原則によって体系化した。



1.2 事業体全体の包含(原則2)

1.2.1 事業体のガバナンス統合とは

1.2.2 事業体のガバナンスの定義要素

1.2.1 事業体のガバナンス統合とは

◆「原則2:事業体全体の包含」の定義

◆COBIT 5 は、事業体全体にわたる包括的な視点で、情報とそれに関わる技術のガバナンスおよびマネジメントを扱う。

すなわち、COBIT 5 は以下の特徴を持つ。

① 事業体の IT ガバナンスを事業体のガバナンスに統合する。

すなわち、COBIT 5 が提案する事業体の IT ガバナンスシステムは、いかなるガバナンスシステムにもシームレスに統合される。

② 事業体の情報を処理する上で、その 情報と関連技術を統制し、管理するために必要となる、すべての機能とプロセスをカバーしている。このように事業体の活動領域を広くとらえ、COBIT 5 では、事業体の内部および外部のビジネスプロセスと同様に、関連する すべての内部と外部の IT サービスを扱う。

◆COBIT 5 は、事業体の IT ガバナンスと IT マネジメントに関して、多くのイネーブラーに基づいた全体的かつ包括的な見方を提供する。イネーブラーは、事業体の全体に関わるものである。

すなわち、事業体の情報と IT のガバナンスおよびマネジメントに関わる、組織内および組織外のあらゆるものと人を含むまた、IT 部門と IT 以外の部門の両方の活動や責任を含む。

出典:COBIT5 Framework

ポイント:事業体の機能とプロセスに関わるすべての情報およびその関連技術を含めた統合ITガバナンス。

1.2.1 事業体のガバナンス統合とは

◆事業体のガバナンス統合

「IT 機能」のみに焦点を合わせるのではなく事業体の IT ガバナンスを、事業体のガバナンスに統合

◆事業体ガバナンスのガバナンス目標(価値創出)

- * 効果の実現 – IT が実現する価値は、事業が重点を置く価値と直接的に連携していなければならず、事業体の価値創造プロセスにおけるIT 対応投資の影響と貢献が明確に示される方法で測定されなければならない。
⇒ **事業価値と直結する重要性**
- * リスクの最適化 – リスク管理は価値の保全に注目している。IT 関連リスクの管理は事業体がIT に確実に注目するように事業体のリスク管理アプローチに統合されなければならない、管理状況は価値の保全におけるIT 関連事業リスクの最適化の影響と貢献が明確に示される方法で測定されなければならない。
⇒ **ERMの観点をもつ**
- * 資源の最適化 – 戦略計画を実行するために適切な能力を備えること、および十分かつ適切で有効な資源を提供することの確保。資源の最適化は、統合された経済的なITインフラストラクチャが提供され、ビジネスが必要とする新技術が導入され、旧式のシステムが更新または交換されることを確保する。
⇒ **最適なIT資源(イネーブラー)の確保**

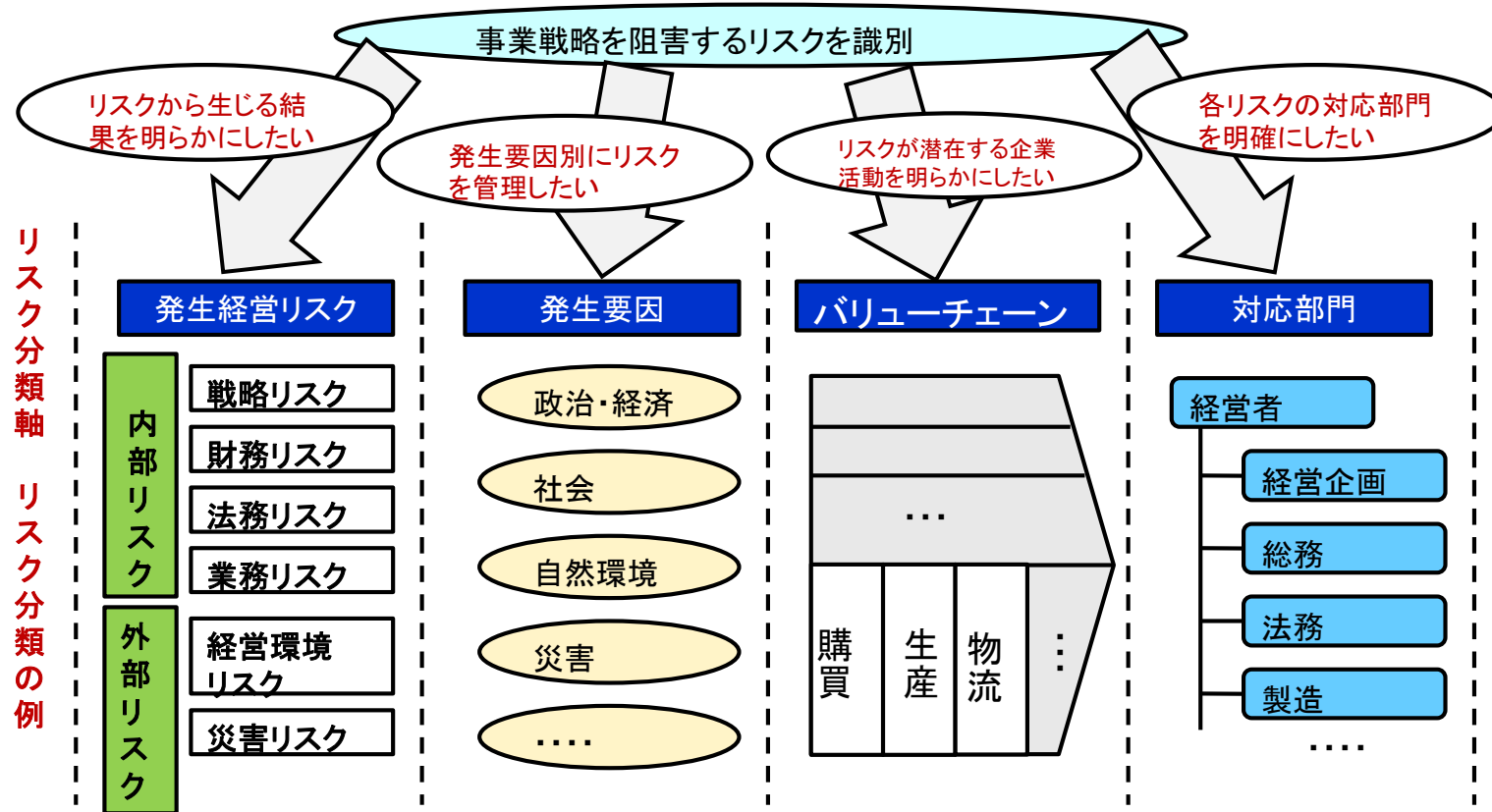
注:ERMとはEnterprise Risk Managementの略称

出典:COBIT5 Framework

ポイント:事業体へのガバナンス統合とはIT部門とIT 以外の部門の両方に責任を持つことになる。

1.2.1 事業体のガバナンス統合とは

◆ERMにおけるリスク統合と視点

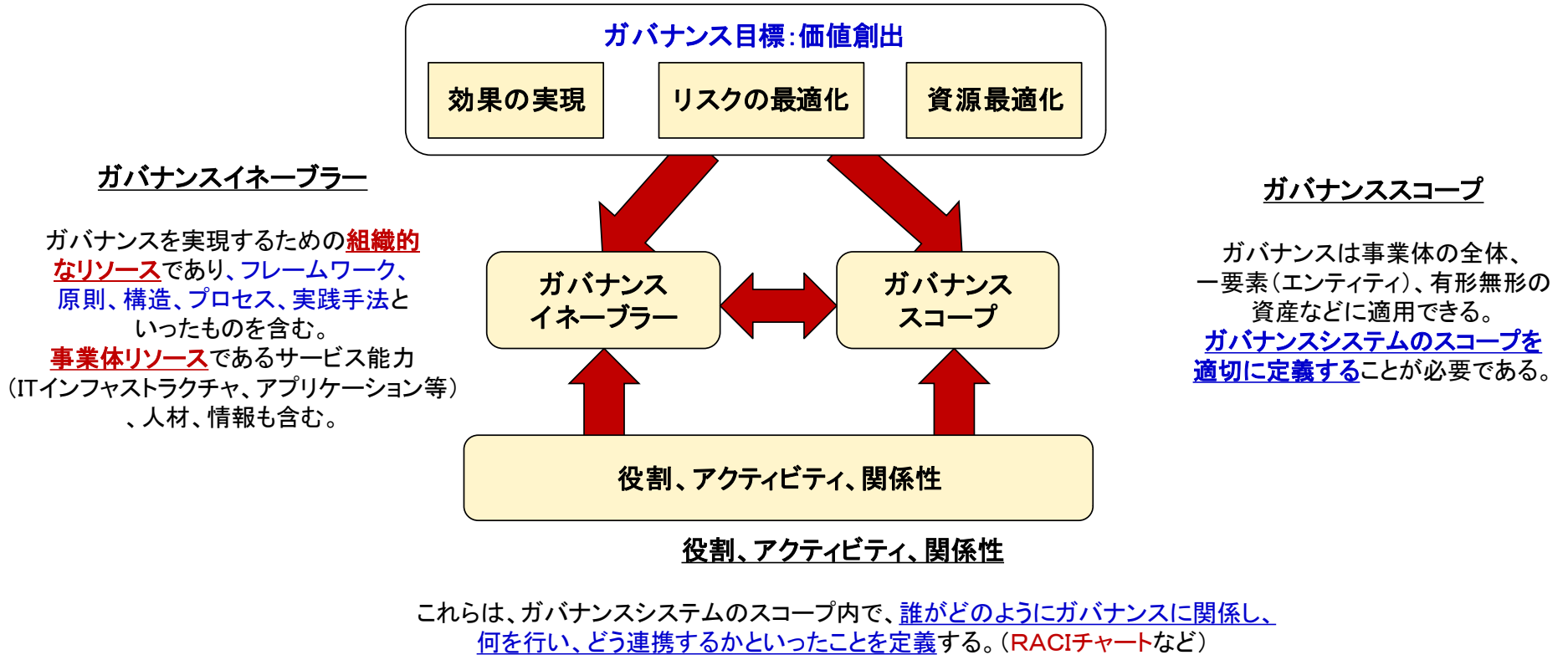


注:ERMとはEnterprise Risk Managementの略称

出典:「ERMで経営を変える」 あずさ監査法人 日経BP

ポイント:リスクガバナンスはERMの観点でのITガバナンスが必要になる。

1.2.2 事業体のガバナンスの定義要素



出典: COBIT5 Framework

ポイント: 事業体のガバナンス目標を達成するには、「ガバナンススコープ」、「ガバナンスイネーブラー」、「役割、アクティビティ、関係性」を明確にする必要がある。